

△惠谷俊之文庫△と
△吉水善徴文庫△の開設仏教学専攻四回生
図書学生委員 藤 堂 俊 英

文学部教授恵谷隆戒博士の御息で、我国の若きオリエント史学者として活躍しておられた、元東海大学文学部助教授恵谷俊之氏の御蔵書が寄贈されたのを機に、本学図書館内に△恵谷俊之文庫△として開設されることになった。

昭和八年十二月二十三日生まれの俊之先生は、三十三年三月京都大学大学院修士課程東洋史専攻を修了されると、翌年十月から二年間、インド政府留学生としてデリー大学大学院に学ばれ、帰朝後の三十八年三月には、京都大学大学院博士課程東洋史専攻を修了された。そして同年四月には日本學術振興会奨励研究生となり、翌三十九年四月にはハーバード奨学金を受けられるとともに、七月には第五次京都大学イラン・アフガニスタン・パキスタン學術調査隊の歴史・言語班員に選ばれ、対象地域の歴史的、言語学的立場からの調査に当られた。それは先生にとって忙しくも懐しい二度目のアジア高原の旅であった。その時の學術調査報告は、足氏惇氏、田村実造両博士との共著『イランの歴史と言語』として公にされたことは我々の知るところである。著書としてはこの外に、『インド世界の変容』人文書院や、本学講師として通信教育部のテキスト、『南ア

ジア史研究Ⅰ・Ⅱ』等を執筆された。この他にも日印文化協会々員、イラン文化協会々員として、広くオリエント史学の学習研磨の途上におられた先生の急逝は余りにも惜しまれる。

文庫には、プルラリティとして理解されるアジア文明の諸相に、広く眼を向けられた先生の、モンゴル、中国、インド、中央アジアイラン等に関する書物が、邦文のもの凡そ七〇〇冊、欧文のもの凡そ四〇〇冊、文献複写フィルム七本、ノート類、それに恐らく他学の図書館にはみられないであろうペルシャ語原典一〇五冊といった貴重な図書が納められている。

この中には或は先生をして東洋学研究に導いた一冊の本が含まれているかも知れない。今は遺されたこれら多くの研究書が、我々の勉学の上に更に広い問題意識の芽を育ててくれるであろうことを思い、先生の御冥福を祈りつつ、ここに「恵谷俊之文庫」の開設を御紹介します。

また本学の大正十四年卒業生で現在大阪府泉南町浄福寺住職でおられる、吉水善徴師の御蔵書がこの五月に寄贈され、図書館では新しく「吉水善徴文庫」と命名して大いに利用して頂くことになっ

た。文庫には仏教学・宗教学・文学等に関する図書が凡そ二〇〇冊あり、この中には雲介子関通全集五巻、阿彌得壽梵語文法綱要や、仏教大辞典、印度支那仏教史地図といった軸物等が含まれている。今は紙数の関係上文庫の全容を詳細に述べる事が出来ないのは残念であるが、ここに先学の貴い学恩に感謝するとともに、これを我々の日々の学習への励みとすべきであらう。

インターネット公開許諾のない文章には墨塗り処理を施しています。